

1. 競技規則について

本大会は2020年度日本陸上競技連盟競技規則および本競技会申し合わせ事項により実施する。また、日本陸上競技連盟の陸上競技活動再開についてのガイダンス「【第2版】競技会再開について(2020年8月11日)」に基づいて実施する。なお、WA規則第143条(TR5:シューズ)のルール再改訂は適用しない。

2. 競技者案内所(TIC)について

競技者案内所(TIC)を競技場正面入口1階ロビーに置き、次の業務を行う。

- (1) 各種問い合わせ、審判長への抗議・上訴の受付、落とし物の取り扱いなど。
- (2) プログラム販売(1冊500円)。
- (3) 記録証の発行(1部500円)
- (4) 競技に持ち込んで使用するやりの受付と返却。
- (5) マスクの販売(1つ100円)
- (6) 滑り止め(炭酸マグネシウム)入れの容器の販売(1つ100円)
- (7) リレーのオーダー用紙の受け渡し(オーダー用紙はTICで配布し、招集完了時刻1時間前までにTICに提出する。)

3. 受付について

- (1) 競技者受付は7時30分からTICにて行う。
- (2) 受付の前に、体調管理チェック表の提出をする(全員分を揃えること)。なお、提出のない者は競技会に参加することができない。
- (3) 受付の際には、プログラムと、一般競技者にはナンバーカードを配布する。
- (4) プログラムの記載ミス(氏名、フリガナ、学年、所属等)については、TICに申し出ること。

4. 招集について

- (1) 本競技会では、招集は競技場で行う。(トラック:スタート地点/フィールド:競技場所)
- (2) 各種目の招集完了時刻は、プログラム競技日程記載のとおりとする。
- (3) 競技場所への入場は第4ゲート(100mスタート地点後方)のみとする。
- (4) プログラム競技日程記載の会場入場時間から競技場所へ入場することができる。入場の際、係員がアスリートビブスがついていることを確認した上で、シューズ・商標・競技注意事項6(4)②に該当する持ち物等のチェックを行う。また、5.(2)の該当競技者には腰ナンバー標識の配布を行う。
- (5) 招集完了時刻に、各競技場所にてアスリートビブスのチェック(最終点呼)を行う。
- (6) 代理人による招集は認めない。2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、第1種目の招集時に招集所備え付けの「2種目同時出場届」を競技者係(入場ゲート係員)に提出すること。届け出が完了すれば、第2種目の招集を事前に受けることができる。
- (7) 欠場する場合は、本人または代理人が必ず競技者係に申し出ること。招集完了時刻に遅れた競技者は当該競技を棄権したものとみなす。
- (8) 競技場内への入退場は、すべて競技役員(競技者係・マーシャル等)の指示・誘導によって行う。また、出場する選手以外は競技場内に入らないこと。

5. ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードはそのままの大きさと胸と背部に確実に固定すること(跳躍競技については胸または背部どちらかでもよい)。
- (2) トラック競技の競技者は、腰ナンバー標識をパンツ右側の上部やや後ろにつけること。このカードは競技者係(入場ゲート)で受け取り、フィニッシュ後は返却する必要はない。さらに1500m以上の競技者は、胸と背にレーンナンバー標識をつける、フィニッシュ後は返却する必要はない。カードを受け取っただけでは、招集完了とならないので注意すること。

6. 競技方法について**(1) トラック競技**

- ① レーン順はプログラム記載通りとする。
- ② 短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン(曲走路)を走ること。
- ③ トラック長距離種目において競技日程を著しく遅らせる可能性がある場合は、審判長の判断で競技を中止させることがある。

(2) フィールド競技

- ① 試技順はプログラム記載通りとする。
- ② フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員(マーシャル等)の指示に従うこと。
- ③ 跳躍種目及びやり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意した規定のマーカートを2個まで置くことができる。ただし、走高跳は競技者が準備したマーカートを助走路内に置くこととする。

競技注意事項

- ④ 砲丸投・ハンマー投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを1つだけ置くことができる。これらのその撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。
- ⑤ 走高跳のバーの上げ方は、優勝が決まって最後の1人となるまでは以下のとおりとする。ただし、天候等の状況により練習の高さを含め変更することもある。

種目	練習の高さ	1	2	3	4	5	6	7	8	
男子走高跳	1m50/1m70	1m55	1m60	1m65	1m70	1m73	以後3cmずつ			
女子走高跳	1m40/1m60	1m45	1m48	1m51	1m54	1m57	1m60	1m63	1m65	以後2cmずつ
男子四種走高跳	1m40/1m55	1m45	1m50	1m55	1m60	1m63	以後3cmずつ			
女子四種走高跳	1m15/1m30	1m20	1m25	1m30	1m35	1m38	以後3cmずつ			

なお、第1位決定のためのジャンプオフは実施しない（同成績とする）。

- ⑥ 走高跳と投てき競技のウォーミングアップは、入場開始時刻から本競技場で行うことができる。
- (3) 抗議と上訴

競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、正式結果が発表されてから30分以内に、その種目に出場した競技者自身または代理人がTICまで申し出る。その抗議に対する審判長の裁定に納得ができない場合は、 Jury に上訴することができる。その手続きは、「上訴申立書」を記入し預託金（1万円）を添え、TICまで申し出ること。

(4) 助力

- ① 競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出なければならない。（コーチング、トイレ等）
- ② ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーやスマートフォンもしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- ③ コーチ等からの助言は競技場区域外（スタンド）のみとし、コーチングエリアは設けない。その際、そこで録画した映像を見せることは助力にはならないが、録画した機材（スマートフォン・ビデオカメラ等）を競技区域内にいる競技者が手に持って見た場合は助力とみなす。

8. その他

- (1) 競技で使用する用器具はすべて主催者が準備したものを使用しなければならない。ただし、やり投用やりは、個人所有のものを使用できる。やりの持ち込みについては、招集完了時刻の1時間前までにTICに持参し、返却もTICで行う。やりの持ち込み希望者は、招集完了時刻の1時間前までにTICに持参し検査を受けること。検査に合格した用具は一括借り上げとし、参加競技者で共有できるものとする。なお、競技終了後にTICで返却する。（競技規則第187条2〔国内〕）。
- (2) スパイクピンの長さは9mm以内とし、走高跳・やり投は12mm以内とする。
- (3) 競技場に商品名のついた衣類、バッグを持ちこむ場合は日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規程」に順守すること。
- (4) 声を出しての応援、集団での応援を行わない。
- (5) スタンドからの撮影は、その選手の関係者のみ許可し、それ以外の撮影は認めない。また、撮影禁止エリアでの撮影は一切できない。
- (6) ウォームアップ場（雨天走路を含む）への入場は、該当選手のみとします。付き添いの入場は認めない。ただし、ウォームアップ場外からのコーチングは認める（ソーシャルディスタンスを確保すること）。
- (7) 競技場所からの退場は、第1ゲート（フィニッシュライン）後方のみとする。競技終了後、指定された動線を通り、手洗いを済ませてから退場すること。
- (8) その他細部注意事項は、プログラム P.9 以降に掲載の「JOCチャレンジ記録会 2020 へ参加する皆様へのお願い」を併せて確認すること。